



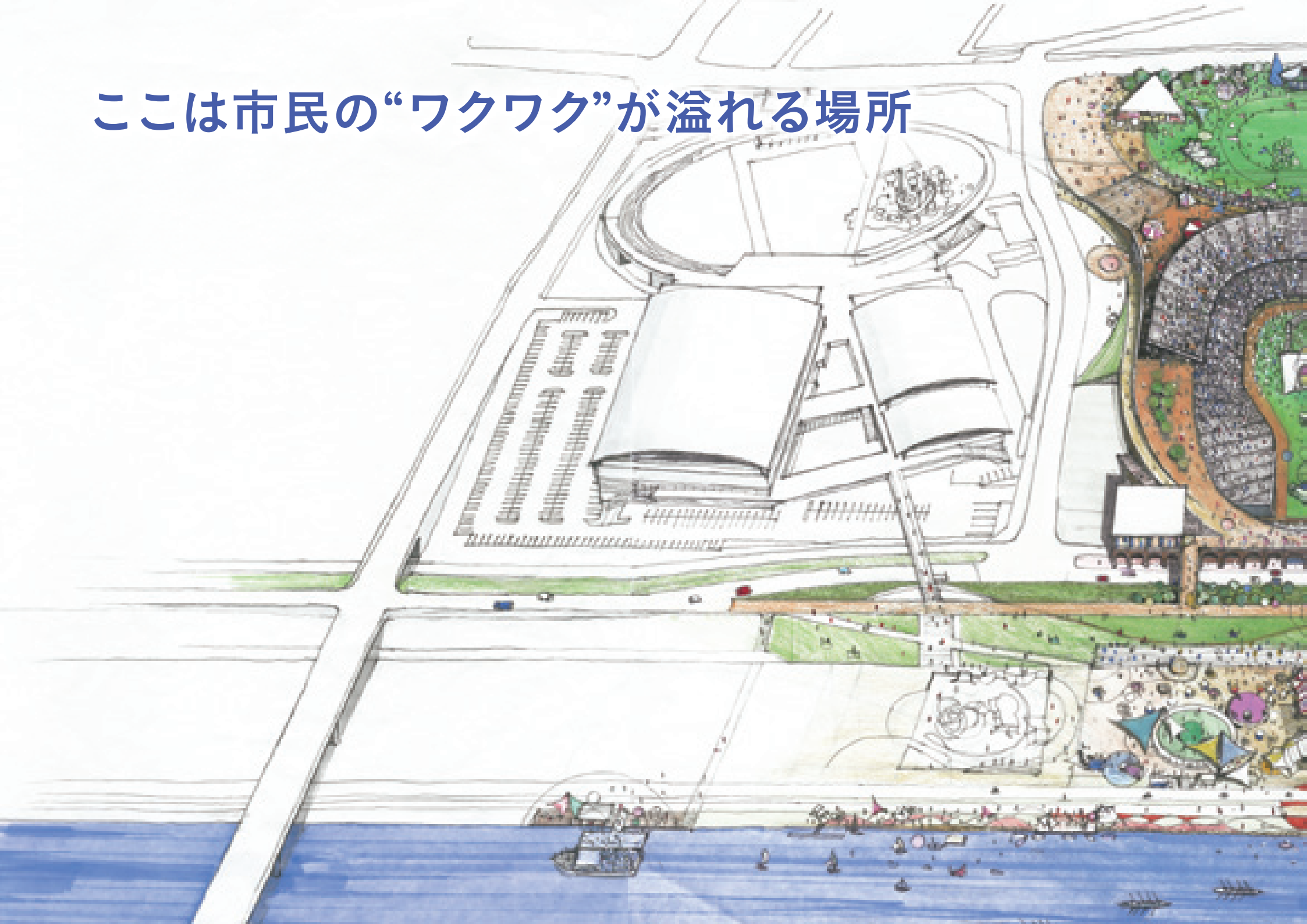
広島経済同友会福山支部設立60周年記念事業

提言

「ふくやまスポーツパーク」 実現に向けて

～ 日本一、スポーツに親しめるまちを目指して～

ここは市民の“ワクワク”が溢れる場所







JR福山駅周辺



福山通運ローズアリーナ



FSP 予定地

FSP
FUKUYAMA SPORT PARK

ふくやまスポーツパーク実現に向けて

福山の市街地を空から見てください。JR福山駅から大通りを南に3km 弱進むと、芦田川の河川敷に突き当たります。私たちはこのエリアに、大きな可能性を感じています。

福山市を縦走する芦田川と大通りが接するこの競馬場跡地には 2019 年、エフピコアリーナふくやまが完成しました。広島経済同友会福山支部は、アリーナに隣接する下流側の未利用地にアウトドアスポーツの施設を新設し、この一帯をスポーツを通じて市民が憩える公園「ふくやまスポーツパーク(FSP)」として整備するよう提言します。

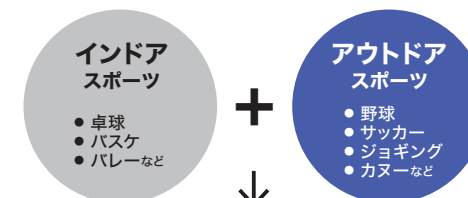
エフピコアリーナふくやまのコンセプトは、「すべての人に開かれたスポーツによる交流と賑わいの創造拠点」とされています。備後地域のインドアスポーツの推進施設であるエフピコアリーナの隣に「アウトドア」の核施設を配置することにより、エリア全体でそのコンセプトが実現できると考えます。いつでも誰もが多様なスポーツを楽しんだり、プロあるいはプロに近いレベルに触れたりできるエリアになるのです。

目指すのは、サッカーや野球といったスポーツはもちろん、コンサートなどもできる広く自由な屋外空間＝「公園」です。ここは芦田川に開けています。芦田川と市民との距離も今よりずっと縮まるでしょう。市民が毎夏楽しみにしている花火大会の特等席になるかもしれません。

公園に集う人々がにぎわいを生みだし、新たなまちの魅力をつくりだす。この場所は、市民がまちを愛し、良くしていこうとする自負心＝シビックプライドを醸成するシンボルゾーンとなる可能性を秘めています。福山市は 2017 年に定めたスポーツ推進計画で、「スポーツで活気あふれるまち 福山」という基本理念を打ち出しました。さらに一歩踏み込んで、「日本一、スポーツに親しめるまち 福山」を掲げませんか。



エフピコアリーナふくやま



すべての人に開かれたスポーツによる
交流と賑わいの創造拠点

ふくやまスポーツパーク



現 況



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

3 すべての人に
健康と福祉を4 質の高い教育を
みんなに5 ジェンダー平等を
実現しよう10 人や国の不平等
をなくそう11 住み続けられる
まちづくりを13 気候変動に
具体的な対策を16 平和と公正を
すべての人に

1. スポーツにおける市民ニーズの変化

少子高齢化などにより、年齢を問わず気軽にできるスポーツのニーズが高まっています。生涯スポーツは健康維持、体力づくりの観点が重視され、市民の生きがいづくりにもつながります。

昨今は、「誰一人取り残さない」という SDGs の理念や多様性の尊重が非常に重要視されています。スポーツにおいても年齢、性別、国籍、障害の有無などを超えたユニバーサルな視点は欠かせません。パラアスリートが利用しやすいハード・ソフト両面の整備も求められています。

自らがスポーツをしたり、レベルの高いスポーツの試合を応援したりすることにより、地域コミュニティの創生も期待されます。こうした効果は、まさにスポーツを通じたまちづくりといえるでしょう。

一方で、高いレベルを目指すジュニア世代が、指導者や練習環境を求めて広島市や岡山、関西圏の中学、高校に流出している実情は見過ごすことができません。



2. 福山市のスポーツ環境

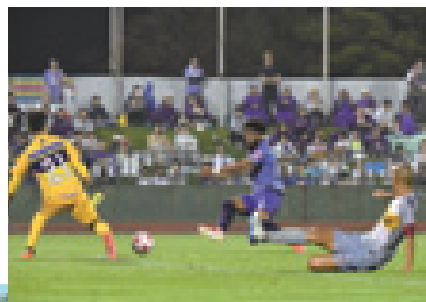
福山市は 2007 年にスポーツ振興基本計画を策定し、「生涯スポーツの推進」「競技スポーツの強化」「スポーツ・レクリエーション施設の整備」に取り組みました。10 年が経過した 2017 年には、スポーツ推進計画をつくり、「スポーツで活気あふれるまち 福山」を掲げています。

ただ、活動の拠点と位置付けられる竹ヶ端運動公園は 1970 年代に建設されていて老朽化が進み、機能は十分とは言えません。プロ野球の興行を例にとると現在はオープン戦とファームの公式戦のみとなっており、広島県内では後に球場を整備した呉市(1993 年改修)、三次市(2009 年竣工)に後れを取っています。加えて、多くの人が集まる際は交通渋滞が深刻になっています。

同じ備後エリアにあるびんご運動公園しまなみ球場(尾道市、2002 年竣工)は、交通手段をクルマに頼らざるを得ない課題を抱えています。

一方、福山市のインドア施設に関しては、エフピコアリーナふくやま整備に続いて、市営屋内プールの拠点施設を 2024 年度中に緑町に建設する計画が公表されています。

広島市は、プロ野球、サッカー J1 をはじめとして国のトップレベルのパフォーマンスに直接触れることのできる環境が整っています。県東部の中心である福山市の現状は物足りないといわざるを得ません。



しまなみ球場
(尾道市)

福山市
竹ヶ端運動公園

具体的な提案

1. FSPの構成

土手上とグラウンドの二つのレベル（高さ）を活用して施設を一体化し、河川敷と地続きを実現します。クラブハウスは、ベースボールフィールドのスタンド下に高低差を利用して設け、敷地の有効活用を図ります。

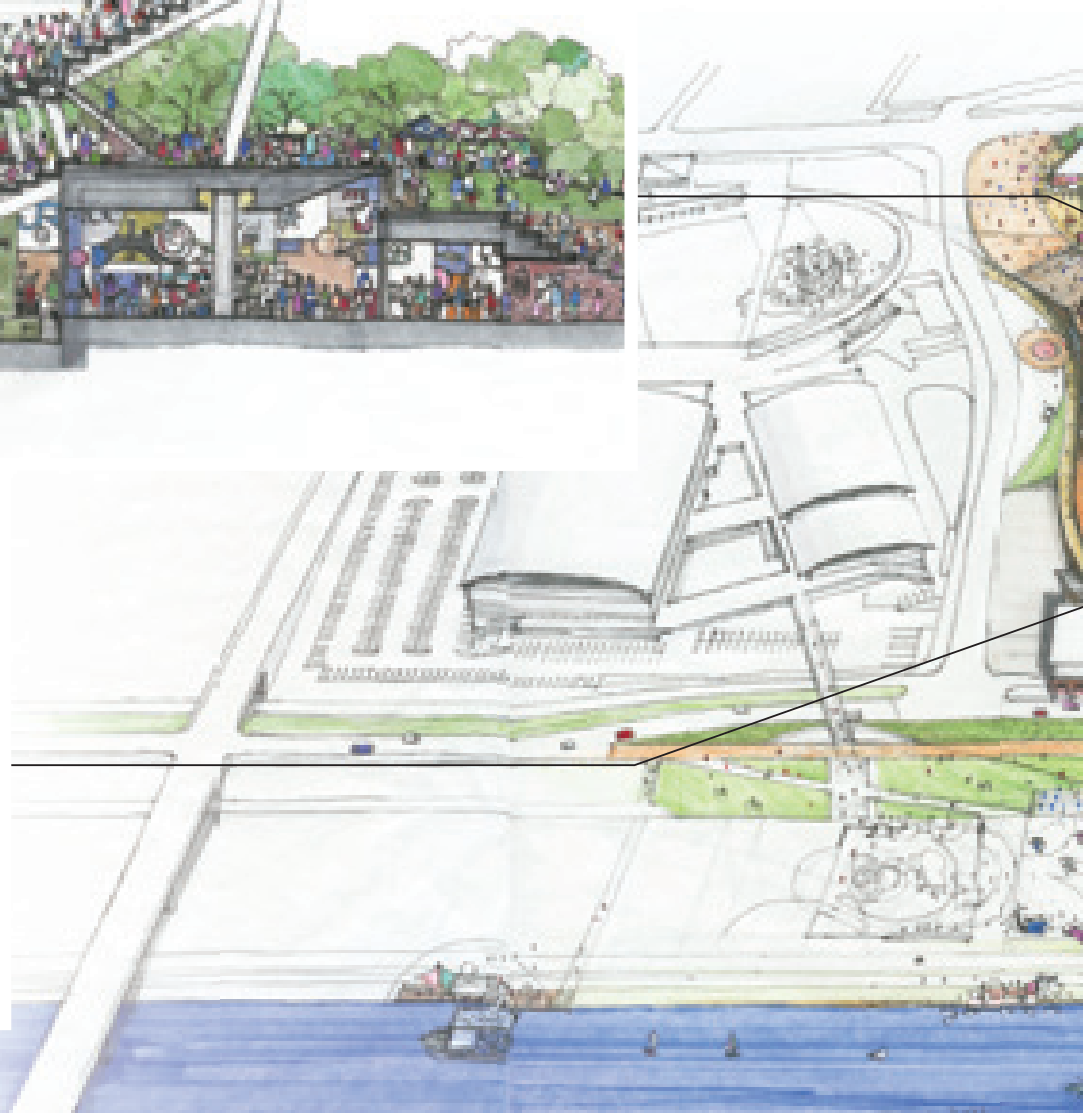
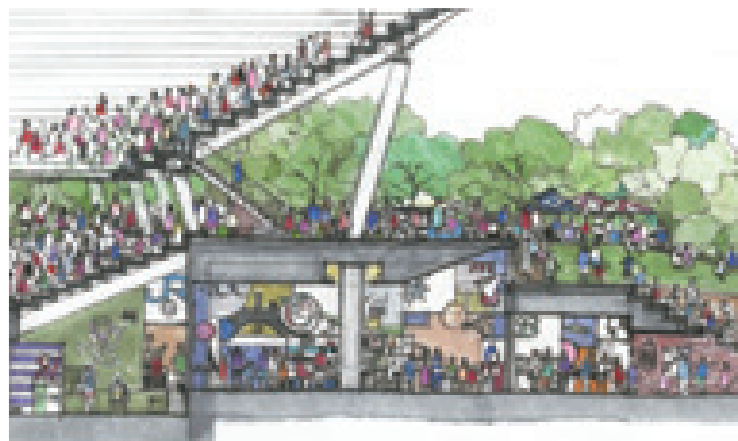
◎ベースボールフィールド（イベント広場）

ナイター設備を有する2万人収容の人工芝球場。プロ野球開催も可能。備後エリアの代表を決める会場に位置付け、地元アスリートのあこがれの存在になる施設を目指します。コンサートなどの大規模イベントにも活用します。



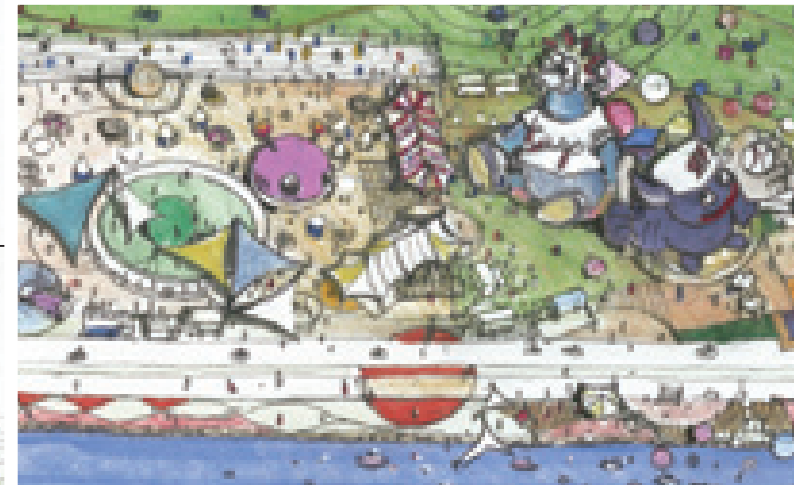
◎クラブハウス

施設利用者だけでなく、市民ランナーや水上スポーツなど周辺の屋外空間を自由に活用した人たちが気軽に使えるロッカーやシャワーを備えます。情報提供、ミーティングに加え、軽食やビールを楽しんだり、ちょっとしたパーティーを開いたりする場を想定しています。



◎多目的フィールド（運動広場）

サッカー、ラグビー、アメフト、陸上などに使います。スタンドは5千人収容、ナイター設備を整えます。周囲はウォーキング、ジョギング、駅伝、マラソンなどに活用。ふくやまマラソン、せとうち福山ー瀬の浦トライアスロンなど既存の大規模イベントや、ふくやまサイクリングロード「しおまち海道」のスタートやゴールにも積極的に取り入れます。



◎新かわまち広場

既存の芦田川かわまち広場（親水広場）の機能を拡充。SUP、カヤック、カヌー、ウインドサーフィンなどの水上スポーツ、レクリエーションが年中繰り上げられる風景をつくります。

具体的な提案

2. 予定地が秘める大きな可能性

JR福山駅前の再生は、福山市の大きなテーマとなっています。福山市、広島経済同友会福山支部がともにまちの魅力づくりのカギと位置付けてビジョンや提言を発表しています。市民はもちろん、他地域から福山を訪れる人々が通過、利用する交通ハブであり、まちのシンボル、福山城も隣接しています。

私たちが FSP を描く競馬場跡地は、福山駅から約 2,6km。都会に住む人々なら徒歩圏内かもしれません。現在はマイカーに依存する傾向の強い福山市民が、自転車に乗ったり、歩いたりする楽しさを体験できる象徴的なエリアに育つのではないのでしょうか。

さらに、竹ヶ端運動公園と福山通運ローズアリーナなどインドアスポーツの施設が集まる緑町とは、競馬場跡地を中心に 3km 圏内の平地にあります。ほとんどのスポーツが至近距離で楽しめるまちが実現すれば、福山市の目指す「スポーツによるまちづくり」がいっそう説得力を持つでしょう。

大規模なイベントの開催時には、河川敷を駐車場として利用することも想定できます。



福山駅前再生提言書(広島経済同友会福山支部、2018年)





3. 芦田川に親しむ

一大工業都市である福山市の礎を築く芦田川は、「備後の母なる川」と呼ばれています。水質悪化は深刻で長年、中国地方の「ワースト」に甘んじていました。しかし官民による努力の結果、水質はこの10年間で大幅に改善されています。

一方で、市民との「距離」はどうでしょう。中国地方整備局の調査では「人との豊かなふれあいの確保」の項目で、流域すべての地点で「不快」に分類され、近づきたくる存在にはなりえていません。

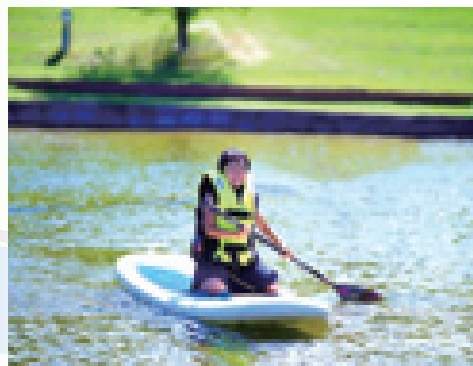
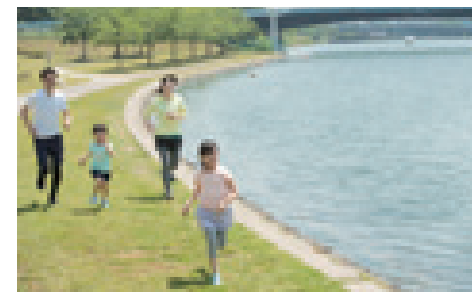
FSPは陸地の施設と芦田川の河川敷、水面との連続性を重視します。近年、多彩になっている水上スポーツの拠点としての活用に加え、散歩、ウォーキング、ランニング、サイクリングなどにいそしむ市民の姿が日常的に見られる風景を生み出したいと考えています。

福山夏まつりのメインイベント、あしだ川花火大会は、川面を1.4kmにわたって彩るスターマインが圧巻です。FSPのスタンドから見るのができたらどんなに素晴らしいでしょう。

市民との距離が縮まることで、芦田川への関心がさらに高まり、治水や水質改善の原動力となることも期待されます。

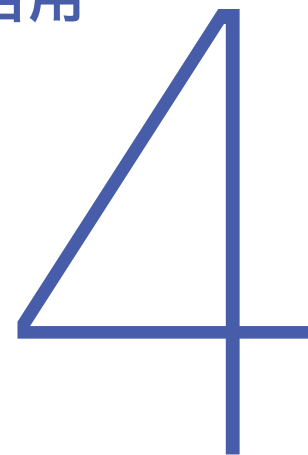


あしだ川花火大会



4. 防災拠点としての活用

国内外で地震、水害などの災害が頻発し、深刻さも増えています。市街地にヘリコプターの離着陸が可能な規模の公園緑地を確保することは、防災的にも価値があり、市民の安心感にもつながります。川に接していることで、物資の輸送に活用することも期待できます。



事業化へ向けて



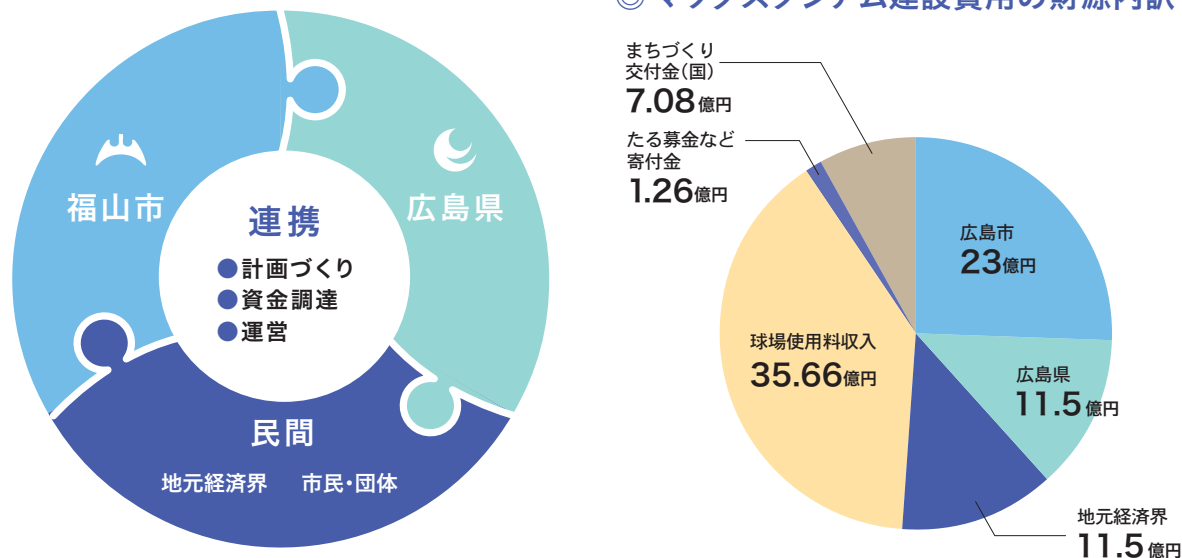
1. 官民連携

事業主体は福山市を想定します。ただ自治体任せにするのではなく、計画づくり、資金調達、完成後の運営にいたるまで、福山商工会議所、広島経済同友会福山支部を中心とした地元経済界が積極的に関わっていくべきだと考えます。広島県との連携も欠かせません。

資金調達では国の助成金を最大限に活用するほか、ふるさと納税制度やクラウドファンディングなど多様な手段を検討し、なるべく多くの事業所、市民が参画できる仕組みを整えます。当事者意識を持つ団体・組織、個人が増えるほど、施設の利用率向上が期待でき、まちの魅力を高めることにもつながると考えるからです。

広島県内では、マツダスタジアム建設の際、広島市が主体となり、広島県、広島商工会議所、広島

◎ マツダスタジアム建設費用の財源内訳

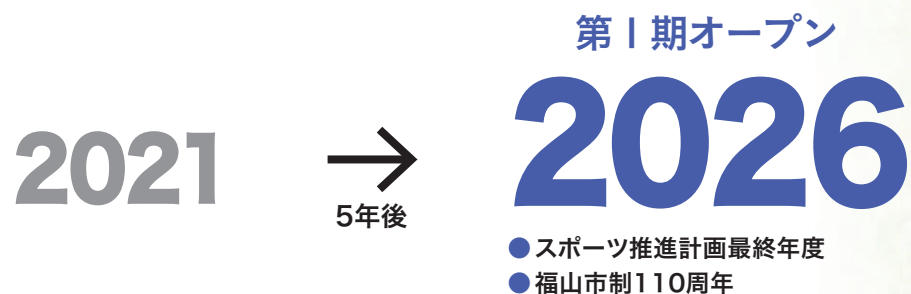


県体育協会、広島東洋カープなど官民で構成する新球場建設促進会議が基本方針を打ち出しました。建設費の骨格 90 億円のうち、約 41 億 6 千万円は、広島市、広島県、国(助成金)が負担しました。残りは、企業や市民による募金や将来の使用料収入で賄っています。

2024 年オープン予定の広島市のサッカースタジアムは、事業主体の広島市が、広島県、広島商工会議所と連携して建設を進めています。事業費 271 億円は企業・経済団体、ふるさと納税制度を活用した個人からの寄付、国の交付金、使用料収入を償還財源とする広島市債の発行、県・市の支出で賄う予定とされており、マツダスタジアムのスキームを踏襲しています。

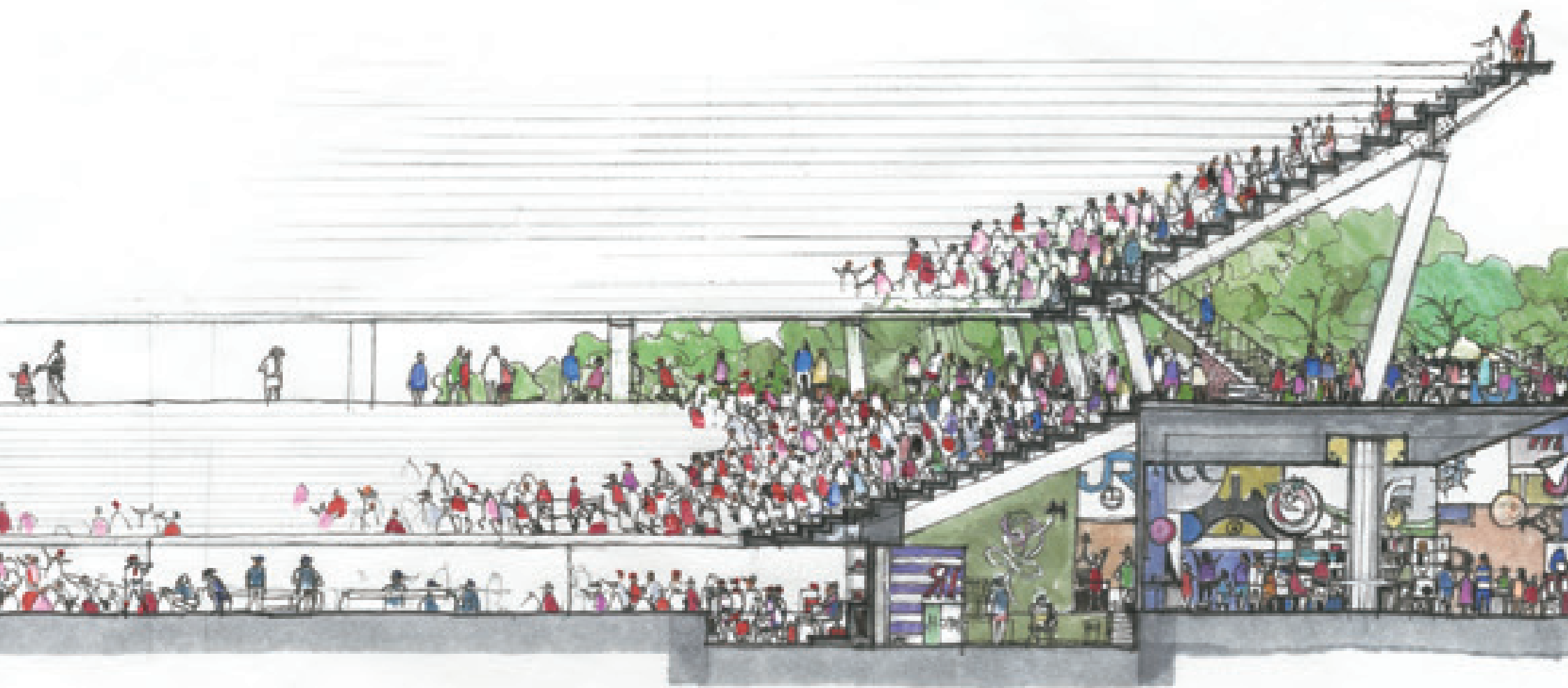
2. 事業スケジュール

段階的な整備を念頭に、第 1 期のオープンは遅くとも 5 年後の 2026 年度内を目指します。2017 年にスタートした福山市スポーツ推進計画の最終年度であり、市制施行 110 周年にもあたります。



この提言を取りまとめるにあたり、株式会社広島東洋カープ様に多大なご協力をいただきました。





ここから”ワクワク”が始まる





広島経済同友会福山支部

2021 年 10 月

広島経済同友会 福山支部

広島県福山市西町 2-10-1 福山商工会議所内